

令和 8 年 3 月定例会

所 信 表 明

■令和 8 年 2 月 1 7 日

■午前 1 0 時から

令和8年3月小浜市議会定例会が開会されるに当たり、所信を申し述べる機会をいただきましたこと、厚く感謝申し上げます。

私は、小浜市民の未来を「みんなが潤う」豊かで力強いまちへ創り上げる責任を担い、この場に立っております。

市民の皆様からの付託を受け、小浜市長としての職務をスタートしてから、約1年半。

この間、市民の皆様、議会の皆様からご支援、ご協力をいただきながら、市民の皆様の声をもとに練り上げた私の政策方針である「稼ぐ・活かす・育む」の循環システムを着実に進めだすことができました。まずは、今日に至るまで一日一日の、皆様のご理解と政策推進へのご協力に対しまして心より感謝を申し上げます。

27,160 人の小浜市民おひとりおひとり、今の暮らしや将来への不安を希望へと変えていく光は、日々取り組む政策に込めております。その職責の重さと希望の光の双方を、職員共々日々心に留め市政運営に取り組んでおりま

す。そして、今日に至るまでの長い歴史と美しい本市の文化や自然の価値を守り、発展させ豊かな市民性を育んでこられた先人たちのたゆまぬ努力の礎の上に、今の小浜市があることを忘れてはなりません。今年は、昭和元年から起算して満百年。今年を「勝負の1年」ととらえ、小浜の未来が広がり、北陸新幹線の夢が現実となる力強い一歩を必ず踏み込む！今日、私はその決意をより強くしたところです。

さて、少し俯瞰してみますと昨年10月から高市政権が始動し「日本列島を、強く豊かに。」そして「強い経済」を構築するために「責任ある積極財政」の下、戦略的財政出動を行うと申し述べられておりました。その政策の推進の信を国民に問う衆議院解散を決断され、先の選挙で新たな体制となりました。県政におきましても、新たに石田知事体制がスタートを切りました。

目まぐるしい変化の中において、現在小浜市は財政的に厳しい状況にあり、物価高やその上昇に追いつけない中小企業事業者の賃上げ負担、経営難が深刻化する

公立病院への財政負担増加など、国県に速やかな対応策を講じていただかなければならない課題が山積しています。

市民の皆様の暮らしを守る経済対策や社会保障に向けて、市議会の皆様方にもお力添えを頂き、知恵と行動を結集してまいりましょう。

新年度の取り組みへの思いをお伝えする前に、まず今年度の取り組み成果の一端を申し述べます。

最も大切にしている「対話によるまちづくり」でございます。今年度も市民の皆様との対話集会を重ね、対話を通して市民の皆様とともに、まちの未来を考え、アイデアを出しあい創っていく事は重要なプロセスであると考えています。今年度は、全12地区での対話に加え、子育て世代や企業、小中高生の皆様とも「こども未来会議」など様々なシーンで対話をする文化が広がってまいりました。その中で、行政だけでは気づきにくい課題に加え、数多くの前向きなアイデアをいただきました。

それらの声を市役所内で共有し、できる限り市政に反

映させていくことで、「自分もまちづくりに参加している」という実感が高まり、市政が自分事へと変わりだす。中学生が学校帰りに市長室に提言をしに来たこともありました。これからも、対話を通して市民の皆様と行政が共に創る「共創のサイクル」を力強く回してまいります。

「稼ぐ」につきましては、今年度のふるさと納税寄附金が1月末時点で7.7億円となりました。就任以来1年半で3倍近くに寄附が増加したことは、「小浜市の政策への投資」が3倍に増加し、返礼品を通して市内事業者の販路拡大とふるさと納税を通しての関係人口も3倍に増加した、つまり地域経済の活性化に大きく寄与しており、市民の皆様への希望の光となる成果が出てきていると感じています。人財が育つ場所に投資が集まる。食育や探究など小浜が誇れる教育に力を入れることで、企業の誘致や進出につながり、若者が活躍するサイクルを描いていきます。

さて、令和8年度には、「稼ぐ・活かす・育む」の循環サイクルをさらに強力に回してまいります。

まず、特に「稼ぐ」で実りだした成果を、「活かす」、「育む」へと回し好循環を生み出します。

令和8年度予算のキーワードは、「ブランドの推進」と「教育への投資」です。

「御食国若狭おばまブランド戦略」に基づき、「歴史・文化」や「食」など本市の強みを磨きあげるとともに、未来を創る人への投資を促進し、さらには戦略的な情報発信により、「選ばれるまち」を目指してまいります。

それでは、まず、本市が重点的に取り組んでいくべき、主要施策について申し述べさせていただきます。

本市の最重要施策である「北陸新幹線 小浜・京都ルート」の早期全線開業」でございますが、

昨年１２月に、与党 PT（整備新幹線建設促進プロジェクトチーム）および北陸新幹線敦賀・新大阪間の整備委員会が再開され、「小浜・京都ルート」を含む８ルート案の再検証が示されました。

これまで重ねてきた議論を白紙に戻すかのような再検証は、大変遺憾であります。

与党ＰＴおよび整備委員会には、「小浜・京都ルート」決定に至った経緯や、これまで実施されてきた環境影響評価や事業推進調査を基に、小浜・京都ルートの正当性や優位性をしっかりと確認していただきながら、スピード感をもって結論を出していただきたいとあらゆる場面を逃さず訴えてまいります。

本市といたしましても、令和８年度中の認可・着工予算化に向けて、できるだけ早期に政府・与党ならびに整備委員会関係者への要望活動を実施するなど、働きかけを強めてまいります。

また、新幹線小浜新駅のおおまかな位置が公表されたことを踏まえ、現在、新駅周辺エリアの整備に関する基本計画の策定を進めております。新幹線開業後の夢のある小浜市の将来像を市民の皆様と共有したいと考えております。

今後も、北陸新幹線「小浜・京都ルート」による一

日も早い大阪までの全線開業に向け、県や各団体とも連携して取り組んでまいりますので、引き続き市民の皆様をはじめ、市議会の皆様、経済界の皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

次に、「ふるさと納税の推進」でございますが、先ほども述べさせていただいたように、本年度は、地元事業者の皆様とともに返礼品のさらなる充実や情報発信の強化を進めました結果、寄附金額は7.7億円を突破し大幅な増加となりました。これも、全国の皆様からの温かいご支援と、魅力ある返礼品の提供にご尽力いただいた地元事業者の皆様の多大なるご協力の賜物であり、深く感謝申し上げます。

3倍に増えました本市の政策への御寄附を「活かす」「育む」へとしっかり投資することにより、さらなるブランドを確立し、ふるさと納税10億円の目標を市民の皆様と超えていく未来を実現してまいります。

次に、「御食国若狭おばまブランド戦略」でございます。

本市は、平成12年に全国に先駆けて「食のまちづくり」

を開始し、全国初となる「食のまちづくり条例」の制定や、生涯食育などに取り組んでまいりました。さらに日本遺産「御食国若狭と鯖街道」は、全国初、そして全国唯一の「プレミアム」選定を受けております。このように、御食国や鯖街道などの歴史や、その歴史の中で育まれてきた食が、本市にとっての「最大の地域資源」であることは、論を俟た^{またない}ないものと考えます。

一方で、食のまちづくりの取組みについて、市役所全体を俯瞰したとき、市民の皆様にとっての効果が十分に発現されていないと感じます

そこで、このたび先人たちが築き上げた価値を現代の視点で再定義し、さらに磨き上げ、「選ばれるまち」を目指すための攻めの戦略として、「ブランド戦略」の骨子を取りまとめました。限られた経営資源を戦略的に投入し、市民、団体、事業者、行政が「選ばれるまち」をつくるために結束する。この挑戦こそが、次世代に輝く故郷を引き継ぐ確かな一歩になると確信しております。

それでは、「ブランド戦略の骨子」に基づき、本市の未来を拓く5つの重点施策を申し上げます。

1つ目には、「次世代につなげる御食国の食の基盤の強化」です。地場産自校式学校給食を核に、有機米の生産拡大や海産物の養殖事業の革新を支援し、子どもたちに深い郷土愛を育むとともに、生産者との触れ合いを通じた「御食国給食」の確立に取り組めます。

2つ目は、「御食国の歴史・食文化を活かした滞在価値の向上」です。小浜西組エリアを面的に磨き上げ、町家の活用と新規創業を支援し、歩いて楽しい賑わいのあるまちを創出いたします。

3つ目は、「心身の健康づくりと豊かな暮らしの推進」です。食と健康、豊かな暮らしを目指したスポーツまちづくりを推進するため、食との連携により幅広い世代でスポーツに親しめる環境を創出いたします。また、来訪者が自然・歴史・文化を体感できるコンテンツの開発を進めてまいります。

4つ目は、「御食国の将来を担う多様な人材の育成」です。本市ではふるさと教育、3S 学習など特徴ある教育

を推進してきましたが、これらを地域の方々との対話型学習としてさらに強化いたします。さらに、海と都をつなぎ先進的文化を受け入れてきた本市の歴史を紡ぎ、グローバルな社会で活躍できる人材を育成するため、英語学習を強化してまいります。

そして、5つ目は、これらの施策を進め、市内外で共感を生むための「御食国若狭おばまブランドの確立と共感の形成」です。「選ばれるまち」となるため、本市が全国に誇れる御食国文化をわかりやすく国内外に発信してまいります。私たちの宝や誇りが最上の魅力となるよう、市民の皆様とともに挑戦し、「稼ぐ・活かす・育む」の循環サイクルにより、未来を編み出す小浜ブランドを確立してまいります。

次に、令和8年度予算編成に当たりましての基本方針と新たに進めてまいりたい事業について申し述べさせていただきます。

少子高齢化による社会保障費が高止まりする中で、

人事院勧告による人件費の増加や公共施設等の老朽化への対応は避けることができないものであります。これらに加え、阿納尻西小川線の整備など大型事業の本格化や物価高騰対策を盛り込んだことにより、一般会計におきましては、181億6,500万円と過去最大の予算を計上することとなりました。

厳しい財政状況の中、おおむねすべての事業をゼロベースから見直し、スクラップやリビルドに取り組むことで、北陸新幹線開業後を見据えたまちづくりの足掛かりとなる「御食国若狭おばまブランド戦略」に位置づけた重点施策を推進してまいります。

まず、児童・生徒の健全な成長を保障するため「学校給食事業」に、1億6,422万5千円の予算を計上いたしまして、小学生の給食費の完全無償化および中学生の給食費の一部公費負担を行います。あわせて、給食会計の公会計化を図ってまいります。

また、食と健康、豊かな暮らしを目指したスポーツまちづくりを進めるため、「スポーツ × ^{かける}食文化によるまちづくり推進事業」に、2,775 万 3 千円の予算を計上いたしまして、包括連携協定を締結した(株)福井ブローウィンズとの連携による、本市の食文化の発信と観光振興を図ってまいります。また、スポーツを通じた青少年の健全育成や地域の活性化を推進してまいります。

また、戦略的な情報発信を進めるため、「ブランド戦略推進事業」に、492 万 6 千円を計上して拡充し、「御食国若狭と鯖街道」のストーリーを軸とした取組みや情報発信を強化いたします。

特に、「御食国若狭おばま食文化館」を情報発信の拠点と位置づけ、日本遺産の情報発信を強化するなど、本市に根づく文化的資源を「見える化」し、暮らしの中にある価値や誇りを市内外に伝え、シビックプライドの醸成につなげます。

このように令和8年度におきましては、事業を厳選しつ

つ、集中的かつ効果的に施策を展開するよう努めてまいります。そして、投資が集まり強い経済をけん引する成長する産業が、現在苦しんでいる分野を将来的に支えていける「地域経済の底力」へとつなげていく。これまでの緊縮志向から、投資志向へ転換し、厳しい財政状況だからこそ挑戦し成長する姿を示し、公共インフラなどの投資的事業につなげ、災害に対する防災にも強く市民の皆様の生命と財産を守れる、さらに強く優しい市政へとシフトしていきます。以上、今後の所信の一端を申し述べさせていただきます。

これからも私は、「みんなが潤う新しい小浜」のまちづくりのために、対話を軸とした市政運営を進めてまいります。政策方針である「稼ぐ・活かす・育む」の循環システムを確立し、地域で生まれた力が地域に還り、次の成長を促す好環境を回し続け強い経済をつくっていきます。

そして、子どもから若者、働く世代、そして高齢者まで、あらゆる世代が交わり、支え合って、みんなの「挑戦」を応援できるまちを、皆様とともに実現します。

議員の皆様、市民の皆様には、小浜の未来を前へ進めるため、引き続きのご理解とご支援、ご協力を、心よりお願い申し上げます。

以上、私の所信表明といたします。

ご清聴ありがとうございました。